

自然教室趣旨 ～自然体験は「生きる力」を育ててくれる～

かつての多くの子どもたちは、仲間とともに自然の中で遊びながら、あるいは、地域において生活、成長していく過程で、様々な自然体験・社会体験を日常的に積み重ねて成長する機会に恵まれていた。

子どもたちは、放課後や休日には野山を駆け回り、昆虫採集をしたり、秘密基地を作って遊んだり、思いきり体を動かして遊んだものです。

しかし、現代の子どもたちは、のびのびと遊べる場所が限られてしまったり、習い事や塾が忙しかったり、体を動かして遊ぶ機会が減ってしまっています。

また、近年はテレビやゲーム、スマートフォンなど、屋内で遊べるものが充実していて、家の中にいても退屈しないことも、外遊び離れの一因かもしれません。

今の子どもたちをめぐる環境は、心や体を鍛えるための負荷がかからないいわば「無重力状態」であり、青少年の健全育成にとって深刻な事態に直面しています。

テレビ、ゲーム、インターネット、YouTube こういった“人工的な”体験を通して得られる情報は、私たちが心地よく感じられるように計算・加工されていると指摘されています。

情報が向こうから流れてくる。つまらなければチャンネルを変えればいい。クリアできなければ電源を切ればいい。こういった“心身に負荷のかからない”環境に甘んじていては、育つものも育たないことは明白です。

自然の中で、これまで触れたことのないものにも触れながら、その存在を認める経験を積む。それにより、大人になって思い通りにならない他者や状況に直面したときにもうまく対応できる素地が、徐々に築かれていくのではないのでしょうか。

信州大学の平野吉直先生が小学4～6年生を対象に調査によると、自然体験活動をたくさんした経験した子どもには、課題解決能力や豊かな人間性など「生きる力」が備わっているのだそうで、自然体験活動をたくさん行なったグループほど、「わからないことは、そのままにしないで調べることが多い」、「誰とでも協力してグループ活動ができる」、「相手の立場になって考えることができる」などの項目に「当てはまる」と答えており、自然体験活動を行なわなかったグループほど、それらが「当てはまらない」と答えた子どもが多いという結果が出ています。

- 「生きる力」とは
- 自然に親しみ、理解する
 - 環境に対する意識を持ち、生命の大切さを知る
 - 想像力
 - 発想力
 - 表現力
 - 豊かな心を持つ
 - 疑問を解決しようとする気持ちが生まれる
 - 探究心が芽生える
 - 自主性が芽生える
 - 協調性、コミュニケーション力
 - 健康で丈夫な体
 - 情緒の安定

自然教室の活動では、子供達が自然に親しむ中で、異年齢集団と相互にかかわり協働することで、自然の豊かさを知るとともに、安全に活動するための基本的な知恵や技能を身に付け、また仲間とのコミュニケーションを通して子どもはさまざまな力を育むことができます。体験活動では、小さな危険を体験させることも大切です。小さな危険を乗り越えることによって、大きな危険を回避できます。失敗しながら問題を解決していくなどの体験によって、主体性が身につく、「生きる力」を育むことができます。

4年生から3年間、継続して活動を積み重ねることによって「生きる力」を育てます。